

文書管理システム CLINILAN PVpro の導入とその効果

©宮本 直樹¹⁾、井上 賢二¹⁾、川野 祐幸¹⁾
久留米大学病院¹⁾

【はじめに】当院では2015年にISO15189の認定を取得し、約5年間ISOに関わる文書原本を紙媒体で管理してきた。バックアップは臨床検査部内に組織された文書管理委員会が管理するハードディスク内に電子ファイルとして保存していたが、文書の改訂や検索に時間がかかること、印刷に紙資源を多く使用すること、管理スペースが多く必要なこと、旧版・コピー版の管理に手間がかかることなど、多くの問題を抱えていた。

2020年9月、検体検査部門のLISの更新に伴い、A&T社のCLINILAN GL-3とCLINILAN PVpro（文書管理システム）を導入した。システム導入の経験および、導入に伴う効果について報告する。

【システムの概要】文書管理システムは、検体検査部門のLISであるCLINILAN GL-3と連携するWebシステムCLINILAN PVproによる機能である。システムはブラウザを利用し、「ファイル管理」、「ワークフロー」、「掲示板」の3つの機能で構成される。また、個人間のメッセージ機能も搭載している。施設内LANで接続された端末であ

れば、リンクを設置することで検体検査部門以外からのアクセスも可能である。

【導入効果】

システムへの移行により、品質文書・記録様式の原本は電子媒体での一括管理となった。一部の外部文書（書籍など）については文書情報のみを管理した。電子原本となったことで、紙媒体の保管スペースを削減でき、また、文書の閲覧・検索が容易となったため、旧版・コピー版の管理の手間と紙印刷の頻度は減少した。回覧や通知についてもシステム上で可能となり、確認・承認・周知にかかる時間を削減できた。要員への意識調査においても、紙印刷の頻度・枚数および、情報共有・周知のための時間・作業は減少したと多くが回答した。

【まとめ】

文書管理システム導入により、文書管理の業務負担は大きく軽減した。今後は文書管理以外の活動についてもシステムを利用し、業務効率化を目指したい。
連絡先 0942-35-3311（内線 5445）